

## 基本施策 2 1 豊かな自然環境の保全

- ・昨年度、有機農業実施計画を策定したことにより成果指標である「環境保全型農業を行う年間水田面積」が急激に伸びている。このような成果については市民に周知するべきであり、関係者だけではなく未来を担う子供たちに向けた周知を図ることで、農業に対する意識啓発につながると考えるので、検討をお願いする。
- ・単位施策である「自然環境の保全と活用」に関しては、河川清掃の参加人数が目標値を達成しているとの説明があったが、参加者の高齢化や自治会の加入率の低下が懸念されている中で、当たり前のように自治会等に協力を求めていることを根本的に見直す時期にきてはいるのではないか。
- ・市内各地でイノシシによる被害が増加しており、生物多様性という観点では、野生動物を保護しなければならないことは理解できる。しかし、市民生活に影響が出ていることもあり、非常に難しい問題と認識する。まずは、里山周辺の田畠の適切な管理を促し、野生動物の生息地にならないよう、市民自ら取り組める予防対策について周知啓発に努めていただきたい。
- ・循環型社会の形成に向けた指標である単位施策「生活系一般廃棄物の排出量」については、昨年度に引き続き目標を達成しており評価する。しかし、ゴミの分別や3R（サンアール）運動を知らない方は一定程度存在することが考えられるため、これらについての周知徹底を図り、一層浸透させる必要があるのではないか。そのうえで、更なるゴミ減量化のためにもゴミ有料化など将来に向けた検討が必要と考える。
- ・単位施策「カーボンニュートラルの推進」に向けた取組においては、市民が自ら取り組めることの周知啓発を行っているとのことだが、思った以上に浸透はしていないと考える。さらなる周知啓発の強化をお願いする。

## 基本施策 2 2 安全で良質な水の安定供給と水質の保全

- ・安定的な経営を行うためにも上下水道未接続者に対する接続促進は、必須であると思う。それぞれ事情はあると思うが、継続的に取り組んでいただきたい。
  - ・単位施策「上下水道の経営の健全化」に関しては、水道料金の見直しが行われたが、今後、人口減少や施設や管路の老朽化等による改修費用の増加などが考えられる。将来ビジョンをしっかりと掲げ、経営の健全化そして持続可能な事業運営に努めていただきたい。
  - ・単位施策「上下水道の整備・管理」に関しては、成果指標である有収率は目標に達成せず、昨年度実績よりも下がっている。これは漏水が主な原因とのことであり、早急にその対策を講じなければ目標達成まで厳しいと考える。AIを活用し漏水箇所の特定に努められているなど、新技术を導入することで無駄のない事業に取り組まれているので、今後、期待したいと思う。
- 限りある財源のなかで、計画的な改修工事に取り組んでいただき、安心した暮らしの確保につなげていただきたい。